

平成 28 年度 第 2 回 行財政構造改革審議会 議事要旨

1 日 時

平成 28 年 12 月 27 日（火） 10：30～12：00

2 場 所

兵庫県公館 第 1 会議室

3 出席者

(1) 委員

五百旗頭会長、井堂委員、稲垣委員、大橋委員、齋藤委員、藤浪委員、正木委員（7 名）

(2) 県

井戸知事、金澤副知事、荒木副知事、大久保防災監、赤木会計管理者、梅谷理事(地域創生・女性担当)、三石理事(技術担当)、西上企画県民部長、山口政策創生部長、太田健康福祉部長、片山産業労働部長、新岡農政環境部長、秋山環境部長、糟谷県土整備部長、小南まちづくり部長、石井公営企業管理者、西村病院事業管理者、高井教育長、平野代表監査委員、太田人事委員長、竹迫警務部長（21 名）

4 議題及び議事概要

(1) 「最終 2 カ年行革プラン（第一次案）について」

県当局から、最終 2 カ年行革プラン（第一次案）について説明。委員からの主な意見は次のとおり。

（多様な働き方の推進）

- ・ 県の男性職員の育休取得率が低い。県が率先して、男性職員の育休取得の制度化を検討してほしい。

（少子高齢化）

- ・ 介護や子育てにおいて豊富な経験をしている元気なシニア人材の活用が必要である。
- ・ 少子化と高齢化は分けて考えるべき。特に、高齢者イコール弱者で、世の中に参画しなくてよいという風潮は問題である。高齢者が生き生きとして、地域を引っ張る県を目指してほしい。

（事務改善）

- ・ 残り 2 年間での定員 3 %削減は、絞りきった雑巾を更に絞る感じがする。IT化や予算査定、人事業務など管理業務の簡素化を今まで以上に進め、事務削減に取り組むべき。

（試験研究機関）

- ・ 試験研究機関の研究テーマと県立大の研究テーマが重なっている。県立大に研究を委託する、あるいは連携を強化して、トータルとしてメリットを増大させる検討をしては。

（県立大学）

- ・ 姫工大や神商大の名前は全国的に有名であったが、兵庫県立大としては、個性が埋没してしまっている。もっとPRをしないとイケない。

(公社)

- ・公社の中で人員が 20～40%削減されている団体があるが、施策展開が十分出来ているのか懸念する。県民サービスがおろそかになっていないか、実態を見ながらやってほしい。

(新たな施策展開)

- ・週末里親制度の推進を図ってほしい。里親をサポートする人材も併せて必要である。
- ・5つの方向性が示されているが、各地域の方向性、あるいは、分野ごとの方向性を示すことも重要ではないか。
- ・文化やスポーツ施策で県を元気にしていく必要がある。
- ・県政 150 周年を機に兵庫の魅力をもっと創出するべき。世界的な観光都市は、地域をあげて取り組んでいる。兵庫や神戸の魅力をアピールできるスケールの大きなプロジェクトを考えてほしい。

(平成 31 年度以降の行財政改革)

- ・自治体が行革の中で選択と集中を進めていく場合、過去からの積み上げで実施してきた施策を完全に不要なものとして切ることは非常に難しいが、行革期間中だから見直しを行うというのではなく、31 年度以降も毎年の見直しを常態化するべき。

(その他)

- ・県内でいじめによる自殺が増加している。子どもが自発的に相談できる場所の設置を検討してほしい。
- ・構造改革をやりながらも、同時に安全安心の施策を全国に先駆けて積極的に展開してきたことをもう少し明示する方がよい。

以上